

くろめしりつおおはししょうがっこう がっこう
久留米市立大橋小学校 学校だより



おおはし



サクラソウ

れいわ ねん がつ
令和5年3月15日

第22号

ぶんせき の せ 瀬 浩一
文責 野瀬 浩一

ありがとう！ 6年生～3／15修了式～

卒業式に向けて体育館での練習も佳境を迎え、式の練習も日一日と緊張感が増し、子どもたちの顔つきも変わってきました。いよいよ明日3月16日(木)、6年生14名が大橋小学校を飛び立ちます。

3月15日、最後の卒業式の練習を終えた6年生に第6学年の修了証をお渡ししました。6年生は、とにかく仲がよく、いつも笑顔に溢れています。それは担任の手柴先生のキャラクターによるところが大きいのでしょう。一人ひとりの居場所がある学級でしたね。修了式で子どもたちにこんな話をしました。

「感謝」を忘れないでほしい。今、みなさんがここにいることは奇跡なのです。みなさんの命があること、それと同じようにまわりの人の命があること、そしてその命が巡りあうこと、そうした奇跡が重なって今の自分があるのです。だからこそ、お父さん・お母さんに「産んでくれてありがとう」「叱ってくれてありがとう」と、友だち「一緒に笑ってくれて、泣いてくれてありがとう」という感謝の気持ちをみなさんのまわりのすべての人に言葉と態度で示してほしいです。

二つ目は、「当たり前」の事を「当たり前」にできる人になってください。あいさつ一つとっても特別な知識も技術もありません。当たり前になっていることを是非、中学生になっても続けてほしいと願っています。毎朝、信号のところに立って来ました。6年生が手本となってあいさつをしてくれました。みなさんの「おはようございます」と返してくれることが、とても嬉しかったし、「今日も頑張ろう」という気持ちにさせてくれました。本当にありがとう。

最後に、みなさんには、無限の可能性ががあります。だからこそ、夢をもち、その夢を実現するために努力を続けてほしいと願います。「夢はみるものではなく、かなえるものだ」という言葉があるように、夢を現実に変えていってほしいと願います。

新型コロナウイルス感染症の対応について

3月13日からマスク着用は自主判断という報道がなされています。しかし、文科省からは、「教育活動について、4月1日からはマスク着用を求めない」と通知されています。具体的な対応がはっきりしましたら、速やかにお知らせを致します。それまでは、これまで通り

- 濃厚接触者や家族に発熱等風邪症状のある場合は、出席停止となります。
 - 引き続きマスク着用を基本とした教育活動を行います。
- 世の中の動向と矛盾するようですが、文科省や市教委の通知に基づいて教育活動を行ってまいりますので、ご理解のほどよろしくお願いいたします。

おおはし だいこひきつぎしき

大橋かっぱ太鼓引継式

コロナ禍のため思うように練習もできず、大橋校区文化祭とこの引継式の2回だけの披露となりました。この3年間で一番練習ができなかった1年だということで、5・6年生にはたいへんすまない気持ちです。

この引継式には、来年度から参加する4年生も見学しました。指導者の酒見先生・秋永先生を前に最後の演奏をしました。曲は「声矢」という曲で、後からお聞きしたところによると、声矢とは、「言葉による矢」「相手を傷つける言葉の暴力」に対してみんなの力でなくしていこうという思いが詰まった曲だと言うことです。短い練習期間に関わらず、素晴らしい演奏でした。そして、6年生から5年生へバチと一緒に6年生からの想いを5年生に託し、5年生もしっかり受け取りました。そして、それを4年生は、今度は自分たちの番とばかりに、しっかり見ていました。5年生は、6年生の想いを受け継いで、今度は4年生をリードして教え導いてください。お願いします。(写真左から「バチの受け継ぎ」「お礼の手紙の贈呈」「指導いただいた先生のお話」)



ちいきがっこうきょうぎかい



いけんこんごい



地域学校協議会の意見を今後活かしていきます。

3月3日に地域学校協議会の委員さんから学校教育活動についてご意見を伺いました。次年度に向け、反映・改善していきます。(3/13配布のアンケート結果をご覧ください。)

- 授業づくり
 - ・Chromebookに慣れてきているので、効果的な活用を行っていきます。
 - ・基本的な問題解決学習を積み上げるとともに、子どもが発言したくなる授業づくりを進めます。
- 楽しい学校
 - ・一人ひとりの自尊感情を高めるよう、授業づくりや一人ひとりが活躍できる行事・活動を行います。
- 笑顔の先生
 - ・自分や友だちを認める振り返り活動を継続します。
 - ・教師自らの人権感覚を磨いていきます。また子どもと向き合う時間を確保します。
- 家庭・地域との連携
 - ・スローメディアなど、地域・家庭と三位一体となって取り組みます。